

絆つないで

隠れたそば産地である、あぶくま高原地域。「あぶくま高原そば振興協議会」では、仲間との絆を深めながら、そばを通して地域活性化に取り組んでいます。

あぶくま高原そば振興協議会[小野町]

(小野湯沢そばの会、川内高原そば、芝山を愛する会、葛尾そば石臼の会、ときわそばの会、道の駅ひらた「たけやま、いわきそば塾」 ☎0247-73-2231



▲団結しながら活動を進める、あぶくま高原そば振興協議会の皆さん



▲研修会では、互いに教え教わりながら、技術向上を目指しています

「あぶくま高原そば」で地域を元気に！

「あぶくま高原そば振興協議会」はあぶくま高原地域のそばをPRし、地域活性につなげようと会長の大千里義市さんを中心に、平成22年7月に発足。各地域のそば愛好会・団体が連携し、6市町村7団体が活動をスタートさせました。会発足の約半年後に震災が発生。メンバーの葛尾村・川内村が大きな被害を受けると、両村を元気付けようと、震災復興イベントと題した「そば祭り」を開催。各地域に避難している両村の仲間が集結し、仮設住宅などで避難者にそばを振る舞いました。また、そば打ちなどの技術交流や向上を目的とした研修会を実施し、仲間同士の交流を通して絆を深めています。

「あぶくま高原そばを広めるために、メンバー全員で協力してさまざまな試みに挑戦しています」という言葉の通り、今年6月には、全国でも例を見ない雪中に眠らせたそばを振る舞う「雪ざらしそば祭り」を開催し好評を博しました。また、計画的避難区域に指定されている川俣町山木屋地区の在来種を使用した、あぶくま産地オリジナル品種の改良にも着手しました。「厳しい自然環境でも育つそばは、昔から地域に暮らす人々の命を支えてきたんです。そのそばを通して、地域の人々の活力や地域活性の力につなげたい」とメンバーの皆さんは意気込みを話します。

11月3日には、首都圏の方を対象とした小野町主催の田舎暮らし体験ツアーで、そば打ち体験を実施する予定です。そばを愛し、地域を愛する皆さんの活動は、仲間との絆を育みながら着実に地域に根付き、広がりをみせています。



▲仲間や地域を元気づけようと開催した「復興イベント」



▲「50年後、100年後に地域の文化になるよう、活動を続けています」と笑顔で意気込みを話してくれました

この競技の正式開催は、同年12月4日に開催された「ベースボールクリスマスinいわき」が最初。県内各地で予選が開かれ、この日に県大会が開かれました。「プロ野球選手会と中学校とのタイアップは全国的にも前例のない試みでした。子どもたちに夢と希望を与えたい。その想いが強かったですね」と磯崎さんは当時を振り返ります。こうしてキャッチボールクラシックは福島で誕生し、福島から全国へと広がり始めています。平成24年には「キャッチボールクラシック」の東北大会が宮城県で開かれ、東北各県以外に

も神奈川県、愛知県、新潟県などが招待チームとして参加しました。

チーム力と思いやりは復興を支える力になるはず

「キャッチボールクラシックの競技時間は2分間、選手間の距離は7mです。3分間では集中力が持たないし、10m以上の距離だと投球フォームや競技のリズムが崩れてしまう。まさに絶妙と言える設定です」と磯崎さんは話します。「この競技はチーム力と思いやりがないとできません。相手

を思いやれば、どんな球を返せばよいか分かるはず。ミスしたときも、後ろの選手がすぐにカバーに入ることが大事。これは今のふくしまに一番求められている精神ではないでしょうか。キャッチボールクラシックに限らずスポーツで得たものは、ふくしまの復興を支える力につながっているはず」と話す磯崎さん。「支えてもらうだけじゃなく、新しいものを創って発信していかないとね」と、子どもたちの未来に優しいまなざしを投げかけます。



(左)「キャッチボールクラシック」をふくしま発の競技として誕生させたことが「ふくしまからはじめよう。」の先駆けとして意義深いものであることから、県知事から感謝状を授与されました

©日本プロ野球選手会

(下)選手を指導する磯崎さん。キャッチボールクラシックの普及が福島の復興につながることを祈っています



ふくしまからはじめよう。



ふくしまの 今

プロ野球選手会と中学校が タイアップして競技化

「子どもたちに野球はどんな存在? って聞くと、『宝物』とか『人生』という答えがよく返ってくるんだよね。その夢を守るのが私の使命です」と磯崎邦広さん。生まれ育ったいわき市で中学校の体育教師として野球部顧問を務めるかたわら、いわき市中学校野球一球会で要職を務め、30年にわたって指導者として野球の普及活動を行っています。

キャッチボールの正確さとスピードを競う「キャッチボールクラシック」。この新しい競技は、子どもたちに夢と希望を与えたい想いが繋がって、ふくしまの地で誕生しました。

※いわき市中学校野球一球会は、いわき市における中学校野球の振興のため、平成5年度に発足した中学校野球指導者のOBと現役指導者の有志の会です。

キャッチボールクラシックは、プロ野球選手会がキャッチボールを競技として考案したもの。それが形になったのは、震災後、福島の子どもたちの笑顔を取り戻そうと、平成23年に震災復興の一環として開催された野球教室でした。同時に開催されたキャッチボールクラシック講習会に一球会の中学野球部員が参加し、ルール化が進んだのです。

キャッチボール クラシックとは

9人1チーム(4人と5人に分かれて競技)で、2分間にキャッチボールが何回できたかを競います。

福島県中学校野球競技力向上委員会・いわき市中学校野球一球会 ●磯崎邦広さん(いわき市)

想いを受けとめ、元気を返す!

「ふくしまから始まった」キャッチボールクラシック



いわき市



(上)キャッチボールをする子どもたちの生き生きとした姿

(下)7月22日、いわきグリーンスタジアムで行われたプロ野球「マツダオールスターゲーム」第3戦のオープニングセレモニーに行われた、プロ野球選手と県内チームの対戦 ©日本プロ野球選手会

(右)磯崎邦広さん。この競技の普及に全国各地を奔走しながら、子どもたちの未来を見つめています

